

教 育 研 究 業 績

氏名 味府 美香

学位： 修士（教育学）

研 究 分 野

教育学・芸術学

研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド

教科教育学・音楽・音楽づくり

主要担当授業科目

「基礎音楽」「音楽演習」「保育内容研究（表現）」「総合表現」「総合演習」

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 1) 保育者・教員養成校における音楽理論：日本女子大学「音楽理論Ⅰ」の実践	平成 15 年 4 月～平成 25 年 7 月	日本女子大学家政学部児童学科（2 年生）において、諸民族の音楽や現代音楽などを用いた幅広い実践的音楽活動を展開し、学生の音楽に対する視野を広げた。また、コードネームを利用した子どもの歌のピアノ伴奏に取り組み、子どもに合わせた音楽活動の実践力の向上を行った。
2) 保育者・教員養成校における音楽理論：日本女子大学「音楽理論Ⅱ」の実践	平成 15 年 4 月～平成 25 年 7 月	日本女子大学家政学部児童学科（2 年生）において、学生自身の指導法の開発のために、世界の様々な音楽教育指導法を取り入れた授業を展開させた。また、音楽をつくる活動を取り入れながら学生自身の創造性を高めた。
3) 保育者・教育養成校における総合的な音楽表現：日本女子大学「音楽実技 2」の実践	平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月	日本女子大学家政学部児童学科（3 年生）において、ミュージカルづくりの授業を展開し、作曲、ミュージカルの構成、歌唱・器楽の練習など総合的な活動を通して、学生の自主性を高めた。
4) 邦楽器を用いた音楽教育の実践：洗足学園音楽大学「邦楽ワークショップ」の実践	平成 17 年 9 月～現在	洗足学園音楽大学において、邦楽器や邦楽作品を用いた音楽づくりの授業を展開し、自国の音楽に対する音楽観を見直すとともに、これからの音楽教育にどのように生かしていくことができるのかその可能性を追求し、邦楽の新たな側面を見いださせた。
5) 邦楽器と音楽教育：洗足学園音楽大学「教員免許更新講座」の実践	平成 20 年 8 月、平成 21 年 8 月	洗足学園音楽大学の教員免許更新講座において、学習指導要領で重視されるようになった我が国の音楽をどのように授業で展開させていくことができるのか、その指導法や我が国の音楽をもとにした音楽づくりの体験を通した日本の音や楽器を用いた音楽活動展開への取り組み。
6) 創造的な表現を支える音楽活動：東京成徳大学「教員免許更新講座」の実践	平成 24 年 6 月	東京成徳大学の教員免許更新講座において、一人ひとりが即興的に表現する活動を通して、子どもの音を支える指導についての視野を広げた。また、子どもと音楽活動を展開する際のピアノの在り方（伴奏など）にも取り組んだ。
7) 文部科学省選定 戦略的大学連携プログラム音楽系 3 大学による共同プロジェクト 音楽コミュニケーション・リーダー養成にむけて第 3 回「ミュージック・コミュニケーション講座」（アシスタント）の実践	平成 23 年 6 月	音楽系大学における音楽コミュニケーション・リーダーの育成。一人ひとりが音楽をつくること、それを支えるリーダーの役割や音楽家としての役割を、実践を通して学び、音楽家としての新しい視野を広げた。
8) 保育者・教員養成校における音楽の基礎的な知識体得の授業実践：東京成徳大学「基礎音楽Ⅰ・Ⅱ」	平成 23 年 4 月～現在	ピアノや弾き歌いの実技レッスンとともに、楽典の知識とコードネームを使った子どもの歌の伴奏への取り組み。

9) 多様な音楽を体験的に学ぶ授業：東京成徳大学「音楽演習」	平成 23 年 4 月～現在	学生一人ひとりの音楽技能や表現を高めるためにピアノだけではなく、打楽器や合唱、管楽器など多様な音楽活動の展開。
10) 第 10 回音楽授業ラボラトリーの実践	平成 27 年 5 月	小・中学校の音楽教員を対象に、「音楽づくり」や「音楽ゲーム」のバリエーションをつくる「音楽づくりワークショップ」を行った。
11) 子どもと創造的な音楽活動を共有するための実践的な授業の展開：東京成徳大学教員免許更新講習	平成 27 年 6 月	幼稚園・小学校教諭を対象に、子どもと創造的な音楽活動を共有することについての講義を行うとともに、受講者一人ひとりが即興的に音楽をつくる「音楽づくりワークショップ」を行った。
12) 邦楽と音楽教育の実践：現代邦楽研究所講座	平成 27 年 10 月	邦楽器や邦楽のアイデアを使った「音楽づくり」について提案。わらべ歌を使った「音楽づくりワークショップ」も行った。
13) 私立幼稚園教諭研修会の実践：さいたま市中央区私立幼稚園研修会	平成 28 年 1 月	私立幼稚園教諭を対象とした、子どもとの即興的な音楽活動についての講義と「音楽づくりワークショップ」を行った。
14) 全国劇場・音楽堂等アートマネジメント研修会 2016 の実践	平成 28 年 2 月	公立施設における新しい音楽活動として、視覚障がい者と即興的に音楽をつくる活動について提案。
15) 音楽づくり授業アイデアワークショップでの実践：鈴木楽器販売株式会社	平成 28 年 2 月	小学校音楽教員を対象に「音楽づくりワークショップ」を行った。音楽ゲームを中心に音楽づくりの初心者から経験者までが楽しむことが出来る活動を提案。
16) 日本音楽の教育をつなぐ会の実践：日本音楽の教育と研究をつなぐ会	平成 28 年 3 月	幼・小・中学校教諭及び演奏家を対象に箏を使った「音楽づくり」を行った。口唱歌に焦点を当て、それをもとに一人ひとりが即興的に音楽をつくる活動を提案した。
2 作成した教科書、教材		
1) 文部科学省学習指導要領準拠（平成 14～16 年度用）「音楽のおくりもの」鑑賞指導の手引（小学校）	平成 14 年 3 月	小学校学習指導要領にもとづき、教科書の鑑賞教材をもとにした子どもたち自身の体験的な活動と鑑賞活動とを関連させた指導事例を執筆（pp.77：1 年生指導事例）及び、ISCM「こどもみらい 2001」（ワークショップ にもとづく）における発表作品が CD に収録。
2) Let's ボディ・パーカッション（VIBS-100～101）	平成 16 年 4 月	小学校の音楽授業で展開できるボディ・パーカッションの DVD 教材（基礎編と展開編）。自分の身体から出る音を使って自分たちで音楽をつくる活動の展開を示唆。DVD 作成のサポート。
3) ときめきどうようミュージアム（VICS-60167～60176）	平成 16 年 10 月	子どものための同様を集めた CD。昔から歌いつがれる歌、新しい歌、身体を動かす歌、手遊び歌など幅広い子どもの歌を収録。子どもの歌の選曲・収録・ブックレット作成のサポート。
4) 鑑賞の授業づくりアイデア集ーへへそ～なの！音楽の仕組みー	平成 21 年 11 月	小学校学習指導用にもとづく鑑賞授業のアイデア集。音楽の仕組みから鑑賞にアプローチする授業のアイデアを提案し、鑑賞する音楽作品の音楽の仕組みにもとづいた音楽活動を子どもたち自身が経験しながら、一人ひとりが積極的に、また、深く音楽を鑑賞することができる活動を展開させた（pp.22～23、46～47、74～75、80～81、98～99）。
5) 一人ひとりの表現を生かすⅡー新学習指導要領にもとづく小学校音楽づくり 7 つのアイデア集ー	平成 22 年 5 月	小学校学習指導要領にもとづく音楽づくりの指導事例集。循環コードをキーワードに、ブルースの基礎的な循環コードを用いながら、子どもたち一人ひとりが音楽をつくることのできる活動を展開させた（pp.39～45：高学年）

<p>6) 音楽づくりの授業アイデア集 —音楽をつくる・音楽を聴く</p> <p>7) 保育者・教師をめざす人、集まれ～！みんなピアノだい好き！</p>	<p>平成 24 年 4 月</p> <p>平成 28 年 1 月</p>	<p>小学校学習指導要領にもとづく音楽づくりのアイデア集。鑑賞曲の語法から音楽づくりを行ったり、多様な音楽から音楽づくりを行うアイデアを提案した。また、小学校での音楽づくりの実際の授業紹介等も行っている (pp.66~69、70~72、90~97)。</p> <p>保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を目指す人に向けたピアノの教則本。基礎的な練習曲やクラシックでは有名な作品、諸外国の曲、日本の曲、現代曲、さらに 1 本指から始めるコードネームや即興、音楽づくりなど、多角的な視点から子どもと音楽活動を行うことが出来るための教則本。</p>
<p>3 教育上の能力に関する大学等の評価 学生による授業評価</p>	<p>平成 23 年 4 月～現在 に至る</p>	<p>大学で実施する授業評価で、担当する音楽関係の授業において 4.5 以上の評価を得ている。また、表現等の授業においてもおおむね 5 段階において 4 以上と良い評価を得ている。</p>
<p>4 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>1) 子ども・助成・クラシック音楽</p> <p>2) 洗足学園音楽大学教員免許講習</p> <p>3) 邦楽演奏家のためのワークショップ</p> <p>4) パーカッション・ミュージアム-打楽器アンサンブルの新次元を楽しむ-</p> <p>5) 小学校音楽専科教員 (葛飾区) ワークショップ</p> <p>6) 平成 23 年度江戸川区小学校音楽部会 C ブロック研究授業</p> <p>7) 東京成徳大学教員免許更新講習</p> <p>8) 東京成徳短期大学附属第二幼稚園教員研修会講師</p> <p>9) 平成 24 年度江戸川区小学校音楽部会一斉研究会</p> <p>10) 平成 24 年度江戸川区小学校音楽部会事前研究・授業研究</p> <p>11) 日本即興学会 2012 大会シンポジウム</p> <p>12) 現代邦楽研究所第 19 期総合コース</p> <p>13) 東京成徳短期大学附属第二幼稚園教員</p>	<p>2006 年 2 月</p> <p>2008 年 8 月、2009 年 8 月</p> <p>2009 年 12 月</p> <p>2011 年 2 月</p> <p>2011 年 2 月</p> <p>平成 23 年 11 月～平成 24 年 3 月</p> <p>平成 24 年 6 月</p> <p>平成 24 年 8 月</p> <p>平成 24 年 10 月</p> <p>平成 24 年 9 月～平成 25 年 2 月</p> <p>平成 24 年 9 月</p> <p>平成 25 年 6 月</p> <p>平成 25 年</p>	<p>平成 17 年度全国公立文化施設アートマネジメント研修会[舞台芸術フェア・アートマネジメントセミナー2006]音楽づくりワークショップアシスタント。</p> <p>洗足学園音楽大学教員免許講習の講師。</p> <p>邦楽演奏家のための音楽づくりワークショップ講師。</p> <p>平成 22 年度全国公立文化施設アートマネジメント研修会[舞台芸術フェア・アートマネジメントセミナー2011]音楽づくりワークショップアシスタント。</p> <p>葛飾区音楽専科教員研究会の講師。</p> <p>江戸川区音楽専科教員 (小学校) の研究授業 (事前研究) 講師。</p> <p>東京成徳大学教員免許更新講習 (創造的な音楽活動) の講師。</p> <p>子どもと創造的な音楽活動を行うための実践を踏まえた研修会講師。</p> <p>江戸川区小学校音楽部会一斉研究会 (音楽づくり) の講師。</p> <p>江戸川区小学校音楽部会による研究授業及び事前研究授業講師。</p> <p>日本即興学会 2012 大会シンポジウム「音楽即興と子どもの教育」パネリスト。</p> <p>現代邦楽研究所第 19 期総合コースにおいて「邦楽と音楽教育」についての講義とワークショップを行った。</p> <p>子どもを支える音楽活動・創造的な音楽活動の実践の研修会講</p>

研修会	8月	師。
14) 平成25年度江戸川区小学校音楽部会一斉研究会	平成25年10月	江戸川区小学校の音楽専科教員を対象に「音楽づくりワークショップ」を行うとともに、常時活動での「音楽づくり」や、鑑賞曲と「音楽づくり」の関係について述べた。
15) 平成25年度江戸川区小学校音楽部会事前研究・授業研究	平成25年9月～11月	小学校音楽科の「音楽づくり」の研究授業における助言者をつとめた。
16) 東京成徳短期大学附属第二幼稚園教員研修会	平成26年8月	参加型のコンサート及び、子ども一人ひとりが即興的に音楽をつくったり、様々な形態の音楽に親しむ活動を行った。保育者を対象とした研修会では、声を使った活動や合唱活動、ピアノのポイントなどを実践的に学ぶ時間を持った。
14) 音楽授業ラボラトリー研究会講師	平成27年5月23日	小・中学校の音楽教員を対象に、「音楽づくり」や「音楽ゲーム」のバリエーションをつくる活動を行った。
15) 東京成徳大学教員免許更新講習	平成27年6月	東京永徳大学教員免許更新講習(子どもと創造的な音楽活動を共有するために)の講師。
16) 東京成徳短期大学附属第二幼稚園教員研修会	平成27年8月	親子で参加できるコンサート及び、子ども一人ひとりが音楽を即興的につくる活動を行った。教員研修会では子どもとの即興的な音楽活動について体験的に提案した。
17) 現代邦楽研究所授業	平成27年10月	邦楽器や邦楽のアイディアを使った「音楽づくり」について提案。わらべ歌を使った「音楽づくりワークショップ」も行った。
18) 東村山市立北山小学校研究授業	平成27年12月	小学校音楽科の「音楽づくり」の研究授業における助言者をつとめた。また、教員研修では全科教員も対象とした「音楽づくりワークショップ」を行った。
19) さいたま市中央区私立幼稚園教諭研修会	平成28年1月	私立幼稚園教諭を対象とした、子どもとの即興的な音楽活動についての講義と「音楽づくりワークショップ」を行った。
20) 全国劇場・音楽堂等アートマネジメント研修会	平成28年2月	公立施設における新しい音楽活動として、視覚障がい者と即興的に音楽をつくる活動について提案。
21) 音楽づくり授業アイデアワークショップ(鈴木楽器)	平成28年2月	小学校音楽教員を対象に「音楽づくりワークショップ」を行った。音楽ゲームを中心に音楽づくりの初心者から経験者までが楽しむことが出来る活動を提案。
22) 日本音楽の教育と研究をつなぐ会講習会	平成28年3月	幼・小・中学校教諭及び演奏家を対象に箏を使った「音楽づくり」を行った。口唱歌に焦点を当て、それをもとに一人ひとりが即興的に音楽をつくる活動を提案した。
5 その他 日本女子大学学業成績優秀賞・研究奨励賞	平成23年4月	日本女子大学大学院にてすぐれた研究を自立的に遂行しようとしている者に対して与えられる賞。各専攻から対象者が推薦され、それぞれの専攻から1名に授与される。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 資格, 免許 1) 中学校教諭専修免許状(音楽)	2003年3月	平14中専第106号・高知県教育委員会
2) 高等学校教諭専修免許状(音楽)	2003年3月	平14高専第105号・高知県教育委員会
2 特許等 なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 なし		

4 その他 なし				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1.文部科学省学習指導要領 準拠（平成14～16年度用） 「音楽のおくりもの」鑑賞 指導の手引（小学校）	共	平成14年3月	日本コロムビア	小学校学習指導要領にもとづき、教科書の鑑賞教材をもとにした子どもたち自身の体験的な活動と鑑賞活動とを関連させた指導事例を執筆（pp.77：1年生指導事例）及び、ISCM「こどもみらい2001」（ワークショップ13にもとづく）における発表作品がCDに収録。 監修：坪能由紀子 著者：瀬尾宗利、錢本三千宏、瀧川淳、 <u>味府美香</u> 、岡村知由紀
2.「幼児の創造的な表現を育むものー4歳児における即興的・創造的活動事例の検証を通してー」	共	平成21年10月	『音楽教育の未来』日本音楽教育学会編、音楽之友社、154-167頁	平成16年度から継続的に幼稚園で行っている音楽活動において、一定の条件（制約）のもとで、幼児集団がどのように創造的に音楽活動に参加し、それを持続・発展させることができたのかを分析・考察した。それを通して、幼稚園をはじめ、子どもの集団活動の場においては、一定の条件（制約）が創造的な音楽活動を育む一助となることを明らかにした。 著者：駒久美子、 <u>味府美香</u> 、木村充子、古山律子、坪能由紀子
3.鑑賞の授業づくりアイデア集ーへ～そ～なの！音楽の仕組みー	共	平成21年11月	音楽之友社	小学校学習指導要領にもとづく小学校の鑑賞授業のアイデア集。音楽の仕組みから鑑賞にアプローチする授業のアイデアを提案し、鑑賞する音楽作品の音楽の仕組みにもとづいた音楽活動を子どもたち自身が経験しながら、一人ひとりが積極的に、また、深く音楽を鑑賞することができる活動を展開させた（pp.22～23、46～47、74～75、80～81、98～99）。 著者：坪能克裕、坪能由紀子、高須一、熊木眞見子、中島寿、高倉弘光、駒久美子、 <u>味府美香</u>
4.一人ひとりの表現を生かすⅡ 新学習指導要領にもとづく小学校 音楽づくり7つのアイデア集	共	平成22年5月	教育出版株式会社、39-45頁	小学校学習指導要領にもとづく音楽づくりの指導事例集。循環コードをキーワードに、ブルースの基礎的な循環コードを用いながら、子どもたち一人ひとりが音楽をつくることのできる活動を展開させると同時に幅広い音楽観を広げることを示唆した（高学年指導事例）。 著者： <u>味府美香</u> 、駒久美子
5.音楽づくりの授業アイデア集 音楽をつくる・音楽を聴く	共	平成24年4月	音楽之友社	小学校学習指導要領にもとづく音楽づくり授業のアイデア集。音楽の仕組みや鑑賞曲の音楽構造、さまざまな視点から音楽づくりを展開する（pp.66～75、90～99）。 著者：坪能克裕、坪能由紀子、高須一、熊木眞見子、中島寿、高倉弘光、駒久美子、 <u>味府美香</u>

(学術論文)				
1. 幼児の創造的な音楽活動に関する研究Ⅰ－幼児の音楽活動の変容の分析・解釈を通して－	共	平成 17 年 3 月	日本女子大学大学院紀要、家政学研究所・人間生活学研究科、第 11 号、225-233 頁	平成 16 年度から現在に至るまで継続的に幼稚園で行っている研究の中から、平成 16 年度の音楽活動で出会ったある一人の幼児の音楽表現に焦点をあて、クラトウスの理論を用い分析することで、そこから幼児の創造的な音楽活動における一つのモデルを提示することを試みたものである。 著者：坪能由紀子、木村充子、 <u>味府美香</u> 、小川博久、 <u>裴珉卿</u>
2. 幼児の創造的な音楽活動の開発に関する研究Ⅱ－見て真似て学ぶ異年齢の音楽活動－	共	平成 18 年 3 月	日本女子大学大学院紀要、家政学研究所・人間生活学研究科、第 12 号、23-34 頁	平成 16 年度から現在に至るまで継続的に幼稚園で行っている研究をもとに、幼児の創造的な表現の発達プロセスに焦点を当てたものである。音楽表現における熟練者（＝ミュージシャン）や経験者（＝年長の子どもたち）を見て真似て学ぶという視点から、音楽表現活動における幼児の創造的な表現発達のプロセスについて明らかにした。 著者：裴珉卿、坪能由紀子、小川博久、 <u>味府美香</u> 、木村充子
3. 幼児の創造的な音楽活動の開発に関する研究Ⅲ－人的環境としてのリーダーや保育者の応答性－	共	平成 21 年 3 月	日本女子大学大学院紀要、家政学研究所・人間生活学研究科、第 15 号、1-8 頁	「応答性」をキーワードに、平成 16 年度から継続的に幼稚園で行っている研究の中から、擬音語・擬態語を取り入れた活動を取り上げ、幼児たちがどのように音楽活動を共有していくか、その過程を分析した。その結果、(1) リーダーや保育者の身体性の重要性 (2) 応答的な音楽活動を行うことの重要性 (3) 環境設定の重要性における応答性が子どもの音楽的な創造性を育む一助となることを明らかにした。 著者：駒久美子、古山律子、 <u>味府美香</u> 、木村充子、坪能由紀子
4. 幼児の創造的な音楽活動の開発に関する研究Ⅳ－「いないいないばあ」と幼児の音楽活動における「間」に着目して－	共	平成 22 年 3 月	日本女子大学大学院紀要、家政学研究所・人間生活学研究科、第 16 号、99-107 頁	「間」をキーワードに、平成 16 年度から継続的に幼稚園での音楽活動に関わってきた援助者の一人に焦点を当て、その援助者がつくる「間」がどのように子どもたちや音楽活動に影響を与えているのかを分析した。その分析を通して、幼児の音楽活動とそれを支える保育者の支援において「間」がどのような意味を持つのかを考察し、音楽活動における「間」と援助との関わりに一つの方向性を見いだそうとした。 著者： <u>味府美香</u> 、駒久美子、古山律子、坪能由紀子
5. 幼児の創造的な音楽活動の開発に関する研究Ⅴ－「mivurix」による事例の分析を通して－	共	平成 22 年 3 月	日本女子大学大学院紀要、家政学研究所・人間生活学研究科、第 16 号、99-107 頁	平成 16 年度から継続的に幼稚園で行っている音楽活動をビデオデータ質的分析支援ソフト「mivurix」を用いて分析を行った。分析を通して、分析結果が記述的な研究と異なる知見をもたらすか、音楽活動の分析における「mivurix」の有用性と問題点は何かを明らかにした（口頭発表 6 にもとづく）。 著者：古山律子、駒久美子、 <u>味府美香</u> 、坪能由紀子

6. 箏の新たな調弦による音楽づくりの広がりーバツハ・モチーフをもとにー	単	平成 23 年 2 月	洗足論叢 (洗足学園音楽大学・短期大学) 第 39 号、1-13 頁	邦楽器を用いた音楽づくりの中から、箏の調弦に着目した事例を取り上げ分析を行った。分析を通して、箏の新たな調弦を開発し、それを用いた音楽づくりを行うことで音楽づくりにおける箏の新たな可能性を見いだそうとした。 著者：味府美香
7. 音楽教員によるオノマトペを用いた音楽づくりー韓国合同音楽教育セミナーにおける参加者の作品分析を通してー	共	平成 23 年 3 月	日本女子大学大学院紀要、家政学研究所・人間生活学研究科、第 17 号、145-152 頁	第 2 回韓日合同ゼミナールにおいて行った音楽づくりワークショップをオノマトペという視点から参加者の作品を分析し、オノマトペが音楽づくりにおいてどのような意味を持つのか、また、文化的・言語的背景を異にする参加者がオノマトペという同一の素材を共有することによって、どのような音楽的異文化交流が生じるのかを明らかにした (口頭発表 7 にもとづく)。 著者：裴珉卿、味府美香、片岡寛晶
8. 幼児の創造的な音楽活動の開発に関する研究 VIー2004 年～2010 年までの実践事例と研究を振り返ってー	共	平成 23 年 3 月	日本女子大学大学院紀要、家政学研究所・人間生活学研究科、第 17 号、145-152 頁	平成 16 年度から幼稚園で行ってきた一連の創造的な音楽活動を振り返り、子どもたちと即興的な活動を行う中で音楽的手立てとして音楽の構造を用いていたことを 47 にも及ぶ活動事例から言及するとともに、これまでに共同研究者によって発表されてきた研究成果を俯瞰し、創造的な音楽活動の意味を考察し、幼稚園における創造的な音楽活動のためにはどのような「手だて」が必要か、その指針となるものをいくつかの視点から示唆した。 著者：坪能由紀子、駒久美子、味府美香、古山律子
9. オノマトペによる幼児の音楽表現の可能性	共	平成 23 年 3 月	人文論究第 80 号、83-96 頁	幼児教育や音楽教育などの教育分野で用いられているオノマトペの教育的な役割や効果、そしてその意味について探るとともに、表現手段としてのオノマトペの限界を考察した。また、オノマトペを用いた幼児の主體的な音楽表現活動の事例を取り上げ、分析を通してオノマトペと音の可塑性というオノマトペの新たな可能性について見いだした。 著者：裴珉卿、味府美香
10. 雑誌『教育音楽』に見る音楽づくりとサウンド・エデュケーションの広がりと変容 (審査付)	共	平成 23 年 8 月	音楽教育実践ジャーナル vol.9 no.1、日本音楽教育学会、98-109 頁	1989 年から 2011 年までの雑誌『教育音楽』(小学版)に掲載される実践事例の分析。音楽づくりとサウンド・エデュケーションが小学校の音楽にどのように広がってきたのか、お互いにどのような関わりを持ち変容してきたのか、そこから見えてくる問題は何かを分析を通して考察した。 著者：味府美香、駒久美子
11. 幼児の創造的な音楽活動の開発に関する研究 VIIーわらべうたの音構造をもとにした音楽活動の分析・考察を通してー	共	平成 24 年 3 月	日本女子大学大学院紀要、家政学研究所・人間生活学研究科、第 18 号、11-19 頁	幼児の創造的な音楽活動における教師の役割をキーワードに、わらべうたの音構造を使った音楽活動において、幼児が即興的に音楽表現をする際に教師がどのような援助を行うことによって活動が発展するのかについて見いだそうとした。 著者：古山律子、味府美香、駒久美子、坪能由紀子

<p>12. Creating Music for the Japanese Traditional Instrument “Koto” – The Left Hand “Oshide” Technique –</p> <p>(報告書)</p> <p>1. 応答性の音楽を楽しむ – 日韓両国の子どものおうたおよび伝統音楽などをもとに –</p>	<p>単</p> <p>共</p>	<p>平成 24 年 7 月</p> <p>平成 20 年 6 月</p>	<p>The Wind from the East; Proposals for Creative Music Activities by Young Musicians from East Asian Countries, Published by the Institute of Creative Music Activity for Children at Japan Women’s University, pp.56-61</p> <p>第 9 回 日本音楽教育学会ゼミナール：日韓合同ゼミナール報告書、55-59 頁</p>	<p>箏の奏法の一つである“押し手”に着目をする事で、古典曲から現代曲までの作品における“押し手”の役割を展望し、“押し手”を通して日本だけではなく諸外国のコト（箏と同じツィター属の楽器）の音楽にも共通点があることを、ワークショップを通じて体験しうることを提案した。</p> <p>著者：味府美香</p> <p>第 9 回日本音楽教育学会ゼミナール・日韓合同ゼミナール（平成 20 年）において行った音楽づくりワークショップについて報告したものである。ワークショップでは日韓の参加者一人ひとりが音楽をつくり、その音楽の分析を通して応答性という共通性を見いだすことができた（口頭発表 5 にもとづく）。</p> <p>著者：味府美香、駒久美子、裴珉卿、坪能由紀子</p>
<p>(その他)</p> <p>[口頭発表]</p> <p>1. 幼児の創造的な音楽活動の開発に関する研究 1 – 幼児の音楽活動の変容の分析・解釈を通して –</p> <p>2. 幼児の創造的な音楽活動の開発に関する研究 2 – 音楽ゲームにもとづいた幼児の創造的音楽表現 –</p> <p>3. 幼稚園における参加型コンサートの可能性を探る –</p>	<p>共</p> <p>共</p> <p>共</p>	<p>平成 17 年 10 月</p> <p>平成 17 年 10 月</p> <p>平成 18 年 10 月</p>	<p>日本音楽教育学会第 36 回大会（琉球大学）</p> <p>日本音楽教育学会第 36 回大会（琉球大学）</p> <p>日本音楽教育学会第 37 回大会（千葉大</p>	<p>[口頭発表]</p> <p>平成 16 年度から始めた幼稚園における創造的な音楽活動の中から、一人の幼児を抽出し、その幼児が音楽活動を重ねていくのかでどのように変容していくのか、そこに援助者がどのように関わっていたのか、そのプロセスを分析し考察した。</p> <p>（学術論文 1 にもとづく）</p> <p>共同研究者：木村充子、味府美香、小川博久、坪能由紀子、裴珉卿</p> <p>平成 16 年度から始めた幼稚園における創造的な音楽活動の中から、偶発的に起こった音楽活動に着目し、どのように子どもたちが音楽活動に関わり、それを発展させていくのかを“音楽ゲーム”という視点から分析し、創造的な音楽活動に必要なものは何かを探るための手がかりを見いだそうとした。</p> <p>共同研究者：味府美香、裴珉卿、小川博久、木村充子、坪能由紀子</p> <p>平成 16 年度から始めた幼稚園における創造的な音楽活動では、年度の締めくくりとして、コンサートを行っている。このコン</p>

S 幼稚園での実践事例から —			学)	サートでは幼児や保育者も参加するスタイルをとり、その年度に展開した一連の音楽活動に用いた音楽的なアイディアをベースとしたコンサートを展開することで、幼児や子どもにとって音楽がより身近なものになるとともに、参加型コンサートの新たな可能性を見いだそうとした。 共同研究者：駒久美子、 <u>味府美香</u> 、木村充子、裴珉卿、坪能由紀子
4. 幼児の創造的な音楽活動の開発に関する研究 3—コールアンドレスポンスを用いた音楽あそびに着目して—	共	平成 19 年 11 月	日本音楽教育学会第 38 回大会（岐阜大学）	平成 16 年度から継続的に行っている音楽活動の中から、コールアンドレスポンス（応答）をキーワードに、幼児と援助者がどのように音楽活動を行い、コールアンドレスポンスという音楽構造が創造的な音楽活動をどのように発展させることができるのかを分析・考察した。 共同研究者：駒久美子、 <u>味府美香</u> 、木村充子、裴珉卿、坪能由紀子
5. 応答性の音楽を楽しむ—日韓両国の子どものうたおよび伝統音楽などをもとに—	共	平成 20 年 1 月	第 9 回日本音楽教育学会ゼミナール 日韓合同ゼミナール	日韓両国の子ども <u>のうた</u> や伝統音楽をもとに、日韓両国に共通する音楽構造の一つである「 <u>応答性</u> 」をキーワードに、参加者一人ひとりが音楽をつくる活動を行った。「 <u>応答性</u> 」という共通の音楽構造を用いることで、音楽的背景を異にする両国の参加者同士が音楽的交流を持つことができる場をつくろうとした。 共同研究者：坪能由紀子、 <u>味府美香</u> 、駒久美子、裴珉卿
6. 幼児の創造的な音楽活動の開発に関する研究 4—“mivurix（ミブリックス）”による事例の分析を通して—	共	平成 21 年 10 月	日本音楽教育学会第 40 回大会（広島大学）	平成 16 年度から継続的に幼稚園で行っている音楽活動をビデオデータ質的分析支援ソフト「 <u>mivurix</u> 」を用いて分析を行った。その分析を通して、「 <u>mivurix</u> 」の有用性と問題点は何かを明らかにしようとした。 共同研究者：古山律子、駒久美子、 <u>味府美香</u>
7. 反復性の音楽を楽しむ—日本のわらべうた・日本の詩などをもとに— (반복성 음악 즐기기 -일본 전래동요・일본의 시를 가지고 -)	共	平成 22 年 1 月	韓日合同音楽教育セミナー（韓国・建国大学校）	「 <u>反復性</u> 」が韓日に共通する音楽構造の一つであるという考えにもとづき、韓日両国の参加者と音楽づくりを行った。言語の異なる参加者同士の音楽的交流を可能にする手だてとして、オノマトペに着目し、日本のわらべうたや詩を用いながら両国の参加者一人ひとりが即興的に音楽をつくる活動を行った。 共同研究者： <u>味府美香</u> 、裴珉卿
8. Enjoy Group Improvisation: Based on the Traditional Rhythm Pattern from Japan, Korea and China	共	平成 22 年 8 月	29 th ISME World Conference2011（北京・China National Convention Center）	日本、韓国、中国の伝統的なリズム・パターンをもとに参加者一人ひとりが即興的に音楽をつくる活動を行った。リズム・パターン自体はそれぞれの国によって異なるが、その一方で、口唱歌や音楽構造、身体性などいくつもの共通性を持つことが見いだされた。 共同研究者：駒久美子、 <u>味府美香</u> 、古山律子、裴珉卿、屈維、坪能由紀子
9. 幼児の音楽づくりによる	共	平成 23 年 5 月	保育学会第 64 回大会（玉川大学）	異年齢幼児集団における創造的な音楽表現活動を、異文化交流の視点から分析することで、幼児の音楽づくりにおける異文化交

異文化交流の可能性－異年齢幼児集団による創造的な音楽表現活動による－				流の新たな可能性を見いだそうとした。 共同研究者：裴珉卿、 <u>味府美香</u>
10.The World Music in the Cunt Music Textbooks in Japan	共	平成 23 年 9 月	International Conference for Music Culture Interommunion of Cross-Border nati-on in North-east Asian Region (哈尔滨师范大学)	今日の日本の教科書に教材化される世界の音楽を、実践を踏まえて紹介。さらにそれぞれの音楽構造を用いて一人ひとりがつくることによって新しい自分たちの音楽をつくることの意味を見いだそうとした。 共同研究者： <u>味府美香</u> 、古山律子、杉本めぐみ、駒久美子、早川富美子、木下和彦、羽生田麻子、坪能由紀子
11.Exploring the Creative Activities Based on the Repetition: From the non-Western Music to Reich and from Reich to the World Music		平成 24 年 7 月		
12.トガトンを使った即興の広がり-音楽づくりを中心に-	単	平成 24 年 9 月	日本即興学会 2012 大会シンポジウム (神戸大学)	「音楽即興と子どもの教育」について論じたシンポジウム。フィリピンの民族楽器のトガトンに焦点をあて、トガトンを使って自分たちで新しく音楽をつくることにどのような可能性や意味があるのかを述べた。 <u>味府美香</u> 、今田匡彦、中地雅之、三宅珠穂
[ポスター発表] 1.保育者養成における創造的な表現活動の開発－身体の動きと音・音楽の関わりを中心に－	共	平成 25 年 10 月	日本教材学会 設立 25 周年記念研究発表大会 (日本大学)	ベラ・バルトーク<マイクロコスモス>の音楽構造の分析を行い、それをもとに学生一人ひとりが音楽とムーブメントをつくる活動を行った事例の分析と考察。音楽やムーブメントを通じた、創造的な表現活動の開発を試みた。 <u>味府美香</u> ・小野和
[ワークショップ] 1.The wind blows (審査付)	共	平成 13 年 10 月	ISCM(International Society for Contemporary Music) “世界音楽の日々 2001 横浜大会「こどもみらい 2001」”(みなとみらいホール)	ISCM 主催 “世界音楽の日々 2001 横浜大会「こどもみらい 2001」”の公募ワークショップにおける入選作品。リコーダーを用いた音楽づくりを横浜の小学生 (3～6 年生) とリコーダー奏者の鈴木俊哉氏とともに展開した。古い西洋音楽をもとにした子どもたちのリコーダー演奏、子どもたちと探したリコーダーの様々な音、現代特殊奏法が散りばめられた鈴木氏の演奏を組み合わせる一つの音楽をつくりあげ、コンサートにて演奏 (その音源が文部科学省指導要領準拠 (平成 14～16 年度用) に収録 : 著書 1)。 <u>味府美香</u> 、岡村知由紀他 6 名
2.幼稚園における音楽づくりワークショップ	単	平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月	東京都内私立幼稚園	幼稚園教諭を対象とした音楽づくりのワークショップを行った。子どもの見つけた小さな発見やささやかな音楽表現をどのように生かし、共有していくことができるのかを様々な音楽づくりを通して見いだそうとした。
3.幼児の創造的な音楽活動の開発に関する研究	共	平成 16 年～平成 25 年	東京都内私立幼稚園	東京都内の私立幼稚園において、幼児の創造的な音楽活動の開発を目的に行った研究 8 ワークショップ)。 共同研究者：坪能由紀子、駒久美子・ <u>味府美香</u> 他

4.子ども・女性・クラシック音楽	共	平成 18 年 2 月	平成 17 年度 全国公立文化 施設アートマ ネジメント研 修会 [舞台芸術フ ェア・アート マネジメン トセミナー 2006]	演奏家と聴衆が共に音楽を共有する活動を展開。子どもや聴衆のつくった音楽をオーケストラで活躍する女性演奏家が自分の演奏技術で支え音楽を豊かにつくりあっていく方法を提案。公共のホールなど公立施設において、演奏家と聴衆という一方のみでの音楽の共有方法ではない新しい活動展開の一つとして提案された。ワークショップのアシスタントを務める。 ワークショップリーダー：坪能由紀子 サポーター：味府美香 演奏：ライムレディーズオーケストラ コーディネーター：坪能克裕
5.童楽Ⅳ 音楽づくりワークショップ	共	平成 18 年 11 月	日本現代音楽協会主催「童楽Ⅳ」	演奏家と作曲家が小学生と一緒に音楽をつくり、コンサートで発表するプログラムにおいて、ワークショップのサポーターをつとめるほか、コンサート当日の聴衆を対象とした会場ワークショップを担当した。
6.森と水の学校 サマーミュージックキャンプ	共	平成 18 年 8 月	サントリー株式会社主催「森と水の学校」	小学4～6年生を対象とした3泊4日のミュージックキャンプでの「音楽づくり」を中心としたプログラムにおいて、ワークショップリーダーをつとめた。プログラムの最後には参加者の子どもたちとサントリーホールでのコンサートで現代音楽を鑑賞した。 味府美香・片岡寛晶・坪能由紀子
7.森と水の学校 サマーミュージックキャンプ	共	平成 19 年 8 月	サントリー株式会社主催「森と水の学校」	小学4～6年生を対象とした3泊4日の「音楽づくり」を中心としたプログラム。プログラムの最後に鑑賞活動（サントリーホール）を位置づけ、この鑑賞作品の音楽構造をもとに「音楽づくり」の7プログラムを作成、実施した。 味府美香・片岡寛晶・須藤英子・坪能由紀子
8.日本の音で音楽づくり	共	平成 19 年 12 月	洗足学園音楽大学/大学院主催 科学研究費助成「日本の伝統文化の特筆に基づく音楽科教材の現代化」研究グループ企画	日本の音や楽器、作品などを用いた教員を対象とした音楽づくりを展開した。邦楽の演奏家たちが演奏をサポートしながら、ともに音楽をつくっていく活動を行い、日本の音楽初心者から上級者まで誰もが参加でき、ともに音楽を共有した。また、日本の音楽の音楽構造に耳をすますことで、西洋音楽との共通点や独自性を見いだすなど、日本の音楽の新たな教材化の可能性などを見いだそうとした。
9.手拍子や体の音で会話しよう	単	平成 20 年 8 月	現代音楽協会主催音楽づくりワークショップリーダーの会	日本現代音楽協会主催のワークショップ案公募に入選。手拍子や身体の音など身近な音素材を持ちながら、会話をするようにお互いが即興的に音楽をつくりあう活動を提案した。
10.邦楽家のためのワークショップ	単	平成 21 年 12 月	邦楽音心会	三味線、箏、尺八を専門とする邦楽の演奏家を対象とした「音楽づくりワークショップ」。ワークショップリーダーとして、現代邦楽作品の中から音楽構造や作曲のアイデアを抽出し、それをもとに音楽をつくる

11.筑波大学附属小学校学習公開・初等教育研修会・音楽分科会研修	共	平成 22 年 2 月	筑波大学附属小学校	活動を行った。 筑波大学附属小学校学習公開・初等教育研修会・音楽分科会研修にて行われた、新学習指導要領にもとづきながら、音楽構造に着目した新しい鑑賞の授業づくりにおけるアシスタントを務める。研修会参加者の音楽づくりの際のサポートや新しい鑑賞の授業づくりの中で提案される鑑賞作品の演奏などを行った。
12.児童館ワークショップ	単	平成 22 年 7 月	東京都武蔵台児童館	小学 1～6 年生の異年齢集団を対象とした音楽づくりの活動を学童（児童館）で行った。楽器づくりやそれを用いた活動の展開を通して、音楽をつくる活動であるからこそ異年齢でありながらも一人ひとりの表現を生かすことができ、また、年少者は年長を見て真似ながら学び、年長者は年少者を導くリーダーとしてそれぞれを生かしあうことができるという、学童において異年齢集団における音楽活動の一つの可能性を提示した。
13.パーカッション・ミュージアム打楽器アンサンブルの新次元を楽しむー	共	平成 23 年 2 月	平成 22 年度全国公立文化施設アートマネジメント研修会 [舞台芸術フェア・アートマネジメントセミナー 2011]	全国公立文化施設協会主催の文化育成プログラムにおける打楽器を使った地域施設・演奏家・子ども（観客）の新たな音楽活動の提案。ホールなど地域の文化施設において、子どもたちや観客が演奏家とともに音楽を共有する活動展開とその方法の提案、また、地域と学校との連携の可能性を見いだそうとした。ワークショップアシスタントを務める。
14.小学校音楽専科教員（葛飾区）音楽づくりワークショップ	単	平成 23 年 2 月	葛飾区小学校音楽専科教員	小学校の音楽専科教員を対象とした音楽づくりのワークショップ。新学習指導要領においてより重視されるようになった音楽づくりを授業の中で子どもとどのように展開していくことができるのかを教員自らが体験することで考えることを行った。西洋音楽のみではなく、新学習指導要領でも重視されている日本の音楽や諸民族の音楽など、幅広い視野を持つことで授業案が広がること、またそうした授業を展開するために音楽づくりが有効であることを、ワークショップを通じて示した。
15.平成 21 年度 大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム選定 音楽系 3 大学による共同プロジェクト音大連携による教育イノベーション	共	平成 23 年 6 月	東京音楽大学、昭和音楽大学、神戸女学院大学	昭和音楽大学にて第 3 回ミュージック・コミュニケーション講座のアシスタントを務める。東京音楽大学からの配信による授業にもとづきながら、昭和音楽大学学生と即興的な音楽づくりの活動を展開した。
16.東京成徳短期大学附属第二幼稚園「音楽広場」	共	平成 23 年 8 月	東京成徳短期大学附属第二幼稚園	子どもが聴くだけでなく、演奏者とやり取りをしたり、演奏に参加したりする参加型コンサートの提示を行った。また、裏声を使った新しい教材の提案を行うとともに、声に着目した教員研修を行った。

17.港区立港南幼稚園「こころを育てる教育講座」講師	単	平成23年11月	港区立港南幼稚園	子どもと音楽を共有するための方法、子どもの音楽を支えるための方法に関する講座。講座とともに親子で一緒に音楽をつくる活動を行った。
18.平成23年度江戸川区小学校音楽部会Cブロック研究授業	単	平成23年11月～平成24年1月	江戸川区小学校音楽部会	小学校音楽科の「音楽づくり」の研究授業における助言者をつとめた。
19.赤坂・青山子ども中高生共育事業「サントリーホールの音楽家たちとクラシック音楽であそぼう」講師	単	平成24年1月～3月	赤坂・青山子ども中高生共育事業、アフタースクール放課後、サントリーホール	鑑賞曲の音楽構造を用いて、子ども一人ひとりが音楽をつくる活動を行った。また、演奏家が子どもの音楽を支えるための指導、助言を行い、子どもとホールの新しい関わり方を提案した。
20.東京成徳短期大学附属第二幼稚園「音楽広場」	共	平成24年8月	東京成徳短期大学附属第二幼稚園	参加型のコンサート及び、子ども一人ひとりが音楽を即興的につくる活動を行った。また、保育者を対象とした研修会では、子どもたちの音を聴き、子どもの音を支え、発展させることの重要性とその指導について提案した。
21.平成24年度江戸川区小学校音楽部会一斉研究会講師	単	平成24年10月	東京都江戸川区小学校音楽部会	小学校の音楽専科教員を対象に、音楽の仕組みを使って即興的に音楽をつくるワークショップを行った。
22.平成24年度江戸川区小学校音楽部会事前研究・授業研究	単	平成24年9月～平成25年1月	東京都江戸川区小学校音楽部会	小学校の音楽科の「音楽づくり」の研究授業における助言者をつとめた。
23.赤坂・青山子ども中高生共育事業音楽づくり・鑑賞ワークショップ	単	平成24年12月～平成25年2月	東京都港区赤坂・青山子ども中高生共育事業部、サントリーホール、NPO放課後アフタースクール	鑑賞曲の音楽構造をもとに一人ひとりが音楽をつくる活動を行った。「音楽づくりワークショップ」のプログラムを作成するとともに演奏家と子どもの関わりについて助言を行った。
24.現代邦楽研究所第19期総合コース講師	単	平成25年6月	現代邦楽研究所	「邦楽と音楽教育」について講義とワークショップを行った。
25.東京成徳短期大学附属第二幼稚園「音楽広場」	単	平成25年8月	東京成徳短期大学附属第二幼稚園	参加型のコンサート及び、子ども一人ひとりが音楽を即興的につくる活動を行った。教員研修会では、音から音楽にする過程を体験的に提案した。
26.平成25年度江戸川区小学校音楽部会一斉研究会講師	単	平成25年10月	東京都江戸川区小学校音楽部会	江戸川区小学校の音楽専科教員を対象に「音楽づくりワークショップ」を行うとともに、常時活動での「音楽づくり」や、鑑賞曲と「音楽づくり」の関係について述べた。
27.平成25年度江戸川区小学校音楽部会事前研・授業	単	平成25年9月～11月	東京都江戸川区小学校音楽部会	小学校音楽科の「音楽づくり」の研究授業における助言者をつとめた。

研究講師				
28.東京成徳短期大学附属第二幼稚園「音楽広場」	単	平成 26 年 8 月	東京成徳短期大学附属第二幼稚園	参加型のコンサート及び、子ども一人ひとりが即興的に音楽をつくったり、様々な形態の音楽に親しむ活動を行った。保育者を対象とした研修会では、声を使った活動や合唱活動、ピアノのポイントなどを実践的に学ぶ時間を持った。
29. 音楽授業ラボラトリー講師	単	平成 27 年 5 月	筑波大学附属小学校	小・中学校の音楽教員を対象に、「音楽づくり」や「音楽ゲーム」のバリエーションをつくる活動を行った。
29. 東京成徳短期大学附属第二幼稚園「音楽広場」	単	平成 27 年 8 月	東京成徳短期大学附属第二幼稚園	親子で参加できるコンサート及び、子ども一人ひとりが音楽を即興につくる活動を行った。教員研修会では子どもとの即興的な音楽活動について体験的に提案した。
30. 現代邦楽研究所講師	単	平成 27 年 10 月	現代邦楽研究所	邦楽器や邦楽のアイデアを使った「音楽づくり」について提案。わらべ歌を使った「音楽づくりワークショップ」も行った。
31. 東村山市立北山小学校研究授業講師	単	平成 27 年 12 月	東村山市立北山小学校	小学校音楽科の「音楽づくり」の研究授業における助言者をつとめた。また、教員研修では全科教員も対象とした「音楽づくりワークショップ」を行った。
32. さいたま市中央区私立幼稚園教諭研修会講師	単	平成 28 年 1 月	さいたま市中央区私立幼稚園	私立幼稚園教諭を対象とした、子どもとの即興的な音楽活動についての講義と「音楽づくりワークショップ」を行った。
33. 全国劇場・音楽堂アートマネジメント研修会講師	共	平成 28 年 2 月	公益社団法人全国公立文化施設協会	公立施設における新しい音楽活動として、視覚障がい者と即興的に音楽をつくる活動について提案。 味府美香・伊原小百合・木幡由美子・坪能克裕
34. 音楽づくり授業アイデアワークショップ講師	単	平成 28 年 2 月	鈴木楽器販売株式会社	小学校音楽教員を対象に「音楽づくりワークショップ」を行った。音楽ゲームを中心に音楽づくりの初心者から経験者までが楽しむことが出来る活動を提案。
35. 日本音楽の教育と研究をつなぐ会講習会講師	共	平成 28 年 3 月	日本音楽の教育と研究をつなぐ会	幼・小・中学校教諭及び演奏家を対象に箏を使った「音楽づくり」を行った。口唱歌に焦点を当て、それをもとに一人ひとりが即興的に音楽をつくる活動を提案した。 講義・ワークショップ担当：森重行敏・味府美香・吉原佐知子
[その他] ＜コンクール・コンサート＞				
1.第 21 回バルトーク・ベラ国際合唱コンクール出場		平成 16 年 7 月	ハンガリー	室内合唱部門第 1 位受賞。
2.第 7 回世界合唱の祭典 in 京都出場		平成 17 年 8 月	京都	招待演奏、テーマソング（作曲：坂本龍一）のレコーディング。
3.マルクトオーバードルフ国際合唱コンクール出場		平成 19 年 5 月	ドイツ	総合第 1 位受賞。
4.トロサ国際合唱コンク			スペイン	ポリフォニー部門第 1 位、フォルクローレ

<p>ル出場</p> <p>5.ポリフォーリア・コーラ スマーケット出場</p> <p>6.European Grand Prix (Fondazione Guido' Arezzo)出場</p> <p>7.European Grand Prix For Choral Singing MARIBOR2012</p> <p><制作物協力等></p> <p>1.Let's ボディ・パーカッション (VIBS-100~102)</p> <p>2.ときめきどうようミュージアム</p>	<p>平成19年10月</p> <p>平成20年11月</p> <p>平成23年11月</p> <p>平成24年4月</p> <p>平成16年4月</p> <p>平成16年10月</p>	<p>フランス</p> <p>イタリア</p> <p>スロベニア</p> <p>ビクターエンタテインメント株式会社</p> <p>ビクターエンタテインメント株式会社</p>	<p>部門第2位、総合第2位受賞（コンサートミストレス）。</p> <p>日本の合唱団初の招待合唱団として参加。</p> <p>総合第1位及び European Grand Prix for Choral Singing MARIBOR 2012 出場権獲得。</p> <p>ヨーロッパ世界大会入賞。</p> <p>DVD 制作協力。</p> <p>CD 制作協力。</p>
--	---	--	---